

保育料無償化にむけて



新政会
まきの
牧野 なお
直樹

◆建設業における働き方改革の取り組みについて

問 建設業における週休二日の義務化について、国や県による働き方改革推進の取り組みが進んでいるが、市の現在の取り組み状況と今後の取り組み予定はどうか。

答 本市では、建設業における将来の担い手確保や労働環境改善の取り組み推進を発注者として支援するため、令和4年6月から、緊急を要する災害復旧工事等を除く、設計金額3500万円以上の工事を受注者希望型の「週休二日」に指定している。

(建設課)

◆保育料無償化について

問 無償化に伴う受け皿は確保できているか。

答 本市における入園希望人数については、現在よりも、約20%の増加に留まるものと推察され、民間事業者の参入による、

3歳未満児保育施設の受け皿確保を進めている。

問 家庭での愛着形成に對する考えは。

答 乳幼児期における親子の愛着形成の重要性については、子どもが安全な環境で愛情をもって養育されることが重要であり、家庭での愛着形成も含め、母親が育児に悩むことがないよう、市としても、引き続き相談窓口の充実を図るなど、母親への支援に取り組んでいく。

(こども課)



母子の愛着

中信四市議会議員研修会

住民サービスのための

DX(デジタル・トランスフォーメーション)のあり方を学ぶ

塩尻市議会では10月27日、松本市、大町市、安曇野市を含めた4市の市議会議員を対象とする研修会を開催しました。

講演では、塩尻市DX推進本部責任者の小澤参事が「行政DXと地域DXによるこれからの住民サービス」をテーマに、保育園入園申請等の住民サービス为例にするなど塩尻市に関わる人の生活の質が向上する都市像について説明しました。

先進的として評価の高い塩尻市のDXですが、技術面に加え人材の育成と活用への取り組みにも力を入れているという話には今後の大きな可能性があります。

少子高齢化が進み、デジタルとの共生を目指す社会では、身近になる先端技術への理解向上と主体的な活用を進めていく必要性が明らかになり、これからのDXのあり方を学ぶ機会になりました。

視察では、グループに分かれて市民交流センターえんぱーく、地域DXセンターcore塩尻、自営型テレワーク推進事業KADOの3箇所を回りました。会場を変えて意見交換会が行われ、DXに対する施設のすばらしさ、人材育成についての話題になりました。場所や設備が整っても、それを生かす人材がいないと意味がないと他市の議員が口をそろえ、行政職員のプロゼン力に感心の声が寄せられました。



中信四市議員が一堂に会する